

手足のしびれ，歩きにくい症状がある方に

—診療ガイドラインに基づいた

頰椎症性脊髄症ガイドブック—

手足のしびれ, 歩きにくい 症状がある方に

診療ガイドラインに基づいた 頰椎症性脊髄症ガイドブック



編集：日本整形外科学会診療ガイドライン委員会
頰椎症性脊髄症ガイドライン策定委員会



南江堂

編集

●日本整形外科学会診療ガイドライン委員会 頸椎症性脊髄症ガイドライン策定委員会

策定組織

◆日本整形外科学会

理事長：中村 耕三

◆日本整形外科学会診療ガイドライン委員会

担当理事：松下 隆

委員長：四宮 謙一

◆頸椎症性脊髄症ガイドライン策定委員会

責任者：里見 和彦

◆手足のしびれ，歩きにくい症状がある方に—頸椎症性脊髄症ガイドブック—

責任者：市村 正一

執筆者：

はじめに，総括	里見 和彦	康和会久我山病院
まえがき	市村 正一	杏林大学医学部整形外科
第1章	藤本 吉範	厚生連広島総合病院整形外科
第2章	渡辺 雅彦	東海大学医学部整形外科
第3章	平林 茂	帝京大学医学部整形外科
第4章	朝妻 孝仁	防衛医科大学校整形外科
第5章	加藤 義治	東京女子医科大学整形外科
第6章	浅野 聡	東埼玉総合病院 埼玉脊椎脊髄病センター

アドバイザー：

総括	米延 策雄	国立病院機構大阪南医療センター
第1章，第2章	市村 正一	杏林大学医学部整形外科
第3章	安藤 宗治	和歌山ろうさい病院脊椎センター
第4章	千葉 一裕	北里大学北里研究所病院整形外科
第5章	星地亜都司	自治医科大学整形外科
第6章	駒形 正志	厚生中央病院整形外科

患者さん，患者さんの家族のためのガイドブック発刊によせて

整形外科は，骨，関節，背骨，筋肉，神経などの「運動器」の疾患を治療対象としています。運動器は体を動かすための器官ですので，その疾患は「思うように体を動かせない，体が動かない」ことになり，日常生活において移動や立ち居振る舞いが不自由になることとなります。

日本整形外科学会では運動器の疾患に対して良質の医療を患者さんに提供できるよう，平成14年以来，特に頻度の多い疾患を選び，「診療ガイドライン」をつくってまいりました。これは，今までに世界中で行われてきた研究の成果や専門家の意見をまとめたもので，基本的に医師向けに書かれたものです。

今回は，これまで作成した「診療ガイドライン」をもとに，患者さん，患者さんの家族の方ができるだけ読みやすくなるような解説書を作成することといたしました。医師向けの医学書は専門用語など難解な言葉が多く，一般の方々にはわかりにくいことがありますので，これらを解説し，出来るだけ読みやすくなるように努めています。皆様からよくお聞きするご質問の内容，また，ぜひ医師側から皆様に知っておいていただきたいことも書くようにいたしました。患者さんが，治療法を決めるなどの判断をされる場合に，あるいは適切に症状や疾患に注意を払っていただくために，場合によっては無用のご心配が避けられるように，この解説書が助けになればと願っています。

日本整形外科学会はこれからも運動器の疾患に対して，良質の医療が提供できるよう努力してまいりたいと思います。

2007年10月

日本整形外科学会理事長
中村耕三

目次

■はじめに	1
■まえがき	5
1. 頰椎症性脊髄症とは	5
背骨の病気が起こるわけ	5
首の痛み、手足のしびれ	6
2. この本の読み方と「推奨度」	7
この本の構成	7
「推奨度」とは	7
第1章 頰椎と頰髄のしくみと働き (解剖・生理)	9
頰椎は働き者	9
頰椎は7個の椎骨がつながった運動器官	9
頰髄は椎骨のトンネル(脊柱管)を通っている	9
頰髄の役割	12
頰髄からは神経の枝が出ている	12
第2章 頰椎症性脊髄症のなりたちは(病態)	15
はじめに	15
1. 頰椎症性脊髄症はどんな病気ですか?何か原因はありますか?	16
クッションがすり減ると……	16
こんなことが起こります	16
2. 脊柱管狭窄は頰椎症性脊髄症になりやすい	18
脊髄の通り道が狭くなります	18
3. 頰椎症性脊髄症ではどんな症状がでますか?	20
よくある症状	20
脊髄が圧迫されると……	20
4. 首が悪くて手に痛みやしびれがあります。頰椎症性脊髄症ですか?	22
第3章 頰椎症性脊髄症についてわかっていることは(病気の特質、自然経過)	23
1. どのくらいの年齢から生じますか?男女差はありますか?	24

脊柱管がもともと狭い人は — 24

ほとんどの人は — 25

2. 症状はどのように経過しますか？ — 26

首の痛みや手足のしびれ — 26

進み具合は人それぞれ — 27

3. 症状が悪化するのはどのような場合ですか？ — 28

たとえば、こんな場合 — 28

普段の生活でも…… — 28

第4章

頚椎症性脊髄症の診断はどうするの(診断)

31

1. どのような症状が出たら病院に行ったほうがいいですか？ — 32

2. 病院に行くときの診察をされるのですか？ — 33

問診が大切 — 33

診察はどうするの — 34

3. レントゲン検査、MRI検査は必要ですか？ — 36

4. みきわめるべき他の病気はありますか？ — 39

第5章

治療はどうするの(治療)

41

手術以外の方法はあるの(保存療法) — 42

1. 薬、首の牽引など手術以外の方法は？またその効果はありますか？ — 42

2. 整体、マッサージ、カイロプラクティックは効果がありますか？ — 44

3. どんなふうになったら手術を受けなくてはなりませんか？ — 45

手術はどうするの(手術療法) — 46

1. 手術にはどんな方法がありますか？また入院期間はどのくらいですか？ — 46

2. 手術で手足が動かなくなったり、車椅子が必要になるようなことはありませんか？ — 49

3. 年をとっていても手術を受けて大丈夫ですか？ — 51

4. 手術をすることで、仕事復帰までの期間はどのくらいですか？ — 53

5. 手術にはどのくらいの費用がかかりますか？ — 54

6. 病气、手術の説明を受けても納得できないのですが、どうすればいいのでしょうか？ — 55

7. どこの病院に行けば安全に手術を受けられますか？ — 56

第6章

手術後の経過はわかっているの(予後)

59

1. 手術によって良くなりやすい症状と変わりにくい症状はありますか？ — 60

2. 手術後に症状が再び悪くなることがありますか？ — 61

3. 退院後の日常生活はどのようにしたらよいのでしょうか？ — 62

定期的な通院が大事 — 62

索引

63